市内森林のゾーニング

2017年3月2日 とよた森づくり委員会事務局

2017/3/2 (C)とよた森づくり委員会事務局 2017

豊田市の森林の将来像

2

林業として成り立つところは公益的機能が十分に発揮できる人工林づくりを進めるとともに、尾根筋や急傾斜地など、必ずしも林業に適さない人工林は針広混交林・天然林化を進めます。また天然林は植生遷移を基本に保全・活用します。

「森づくり構想」7頁



(C)とよた森づくり委員会事務局 2017

- 経済的な立地条件および自然的な立地条件等の特性に応じて、 (A)~(G)に区分し、場所毎に目標とする森林像を規定
 - これは、限られた予算を有効に活用するため、保安林等の既存制度も活用しながら森林区分ごとにメリハリの効いた施策を展開する目的も

「森づくり構想」11~14頁

资林区分番号		- (A)	(B)	(C)	([2)	(E)	(F)	(G)
現況		人工林				(1	,	(2)	(3)	
区分名称		林業経営林		林業経営移行林		針広泥?	交誘導林	利用天然林	天然林 植生遷移林	植生保護林
立地条件等の特性	大区分	7		・ 連生等の経済的環境・自然的環境から、公益的機能に配慮しつつ林 ることが望ましい場所		道路からの距離、地形・地質、現 能を重視した森林管理が望まし		、現存植生等の経済的環境・自然的環境から、林美経営よりは公益的機 はしい場所		並形・地質や生態系保全の観点 から天然林であることが望まし い場所
	小区分	現存植生は人工林で、現在また は将来的に採算が見込む。かつ 有者に経済林として積極的に 経営する意志があることから、林 業経営することが望ましい場所		現存植生は人工林で、経済的環境が6投降が見込めるため、補助 対度等の健康により、所有者の経 営意欲を薦め林美経営すること が確求しい場所	飛存棒生は人工林で、適 路から適いため現在は採 賃が見込めないが、路側 蟹偏等によって効率的な 林業経営ができるように 場所 場所 場所 場所 場所 場所 場所 場所 場所 場所 場所 場所 場所	現存植生は人工林で、将 来的にも採算が見込め ないこと又は環境保全上 の観点から、池度間侵役等 により自然回復した樹種 を加えた針広混交林化 への誘導が望ましい場所		現存植生は天然林で、所有者に 天然林として利活用する意志が おり、いわゆる里は社として利用 していく場所及び一般市場に関 放する市有林、NPO等による整 個林	現存植生は天然林で、所有者に 天然林として利用する意志が徴 いため、基本的には自然の相生 選挙に任せるごとが望ましい場 所	既存植生は天然林で、自然環境 の保全の観点から天然林の維持 が必要な場所
所有者の	所有者の現在の意志		B.志有	経営意志無		-		利活用意志有	利活用意志無	_
林奕印	林奕的な適・不適		現状不適地 (将来適地)	選地	現状不適地(将來適地)		不適地	_	-	_
1039	管理基本方針		自己管理	補助を活用した自己管理・委託 管理への誘導	補助を活用した自己管理	商率補助又は公的管理等		自己管理 (森林所有者·市民·NPO等)	自然の植生遷移	自然の植生遷移 (必要に応じて保全対策)
海棠方針		○通常順使 ○路網等基盤整備 ○母輩人工株 ○仅収穫は再連林		○強度切開き間位のち強度利用間代 ○路場等基盤整備 ○単層人工林 ○位保後は再造林	○確応切置き間伐のち ・・ ・ 強度利用関伐 ○ 命網等基盤整備 ○ 中層人工林 ○ 代拝後は再追林	○強度切置き間伐又は存枯 らし附伐 ○スギ・ヒノキの大怪木を 残した針広泥交林化		○拡大造株は世ず天然林を維持	-	-
将来(100年後)の森林像		人工林						天然林		
		公益的機能が高い杯業経営			林	針 広 泥交林	植栽木伐採 後は天然林	管理された天然林	植生遷移した天然林	植生促落林

構想立ち上げ当時は、所有者の意思も考慮に入れた 各区分を地図上に表現しない、画期的なゾーニング(森林区分)

2017/3/2

(C)とよた森づくり委員会事務局 2017

市内森林のゾーニングに関する検討

4

■ 現状と課題

- 林業経営林(A)、林業経営移行林(B、C)における間伐の遅れ
 - 間伐(切置き・利用ともに)実績向上の取組が急務
- 針広混交誘導林(D)の実績の伸び悩み
 - 現在の人工林50~70%を100年後に針広混交林化へ移行することが大きな柱であるが、この8年間の実績は限定的
 - 針広混交林化に向けた知見が限定的であり、またモデル林等がないため、所有者への提案が困難



■ 対策の方向性

- 立地条件等の特性に応じた森林区分と施業方針等について、針広混交林の拡大 や間伐面積の拡大を目指すために見直し
 - 森林区分と施業方針の見直し/「針広混交林」の定義の再検討
 - 人工林のゾーニングの作業フロー

今回の提案事項

森林区分		Α	В	С	D	
現況		人□	C林	天然林		
	区分名称	人工林維持ゾーン	針広混交林化 ゾーン	利用天然林ゾーン	植生保護林等 ゾーン	
推進基準	立地条件等の 特性	緩傾斜で、右記の針 広混交林の特性以 外のエリア等	尾根部などで林分 蓄積の低いエリアや、 急傾斜地や沢沿い、 0次谷等防災保全上 重要なエリア等	緩傾斜で、左記の針 広混交林の特性以 外のエリア等	自然環境の保全の 観点から天然林の 維持が必要な場所 等	
	木材生産の 適・不適	適地	不適地	_	_	
	施業方針	通常間伐路網等基盤整備単層人工林伐採後は再造林	通常間伐及び強度間伐既存の広葉樹等を生かして混交林化	・ 拡大造林はせず に天然林を維持		
将	来(100年後)の 森林像	公益的機能の高い 人工林	針広混交林/ 天然林	天然林	天然林	
将来位	の管理コスト(目標)	中	低	中	低	

2017/3/2 (C)とよた森づくり委員会事務局 2017

提案:人工林のゾーニングの作業フロー

6

①「針広混交林化ゾーン見取り図」の作成

- 現場確認の前に、次の基準により、林分の立地によるエリア図を作成
- 尾根部(幅20m)、河川沿い(みお筋から片側10mずつ)、0次谷、急傾斜地(35~40度以上)

新しい保全 ルールに準拠

②「ゾーニング図(現場調査前)」の作成

- ①の作業を踏まえて、現段階でのゾーニング図(現場調査前)を作成する。
- ①のエリアと地番界を見ながら、当該地番内に①のエリアが50%以上を占めている 場合は、針広混交林化ゾーン提案を検討する。

針広混交林化 の判断基準

③現場調査

• ①②の図面を持って現場調査を実施する。尾根部や河川沿い、急傾斜、 0次谷の状況などを確認する。

④「ゾーニング図(現場調査後)」の作成

所有者意思の 確認

詳細は資料3-2

プーを参照

• ③の結果を踏まえて、必要に応じて修正を行い、ゾーニング図(現場調査後)を作成する。

⑤施業提案会にてゾーニング図の確定

「人工林のゾー •④の図面に沿って、 ニング作業マッ ^{する。}

④の図面に沿って、施業提案会で所有者と協議し、最終的な区分を決定する。